

私たちは  
まちがっているのではないか？！

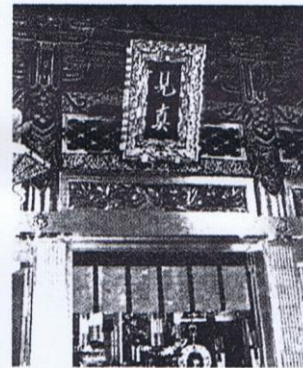
真宗大谷派の6月宗議会に、「御影堂から『見真額』を下げた宗祖親鸞聖人750回御遠忌法要厳修を求める請願」と「真宗大谷派の歴史を検証する『天牌・見真額』の資料の常設展示する事を求める請願」が、山陽教区有志から提出されました。

伝教大師は最澄、弘法大師は空海。だが、見真大師は？と聞かれて即答できる人は少ないのではないか。実は浄土真宗の開祖親鸞のことだ。  
浄土真宗本願寺派（西本願寺）と真宗大谷派（東本願寺）では、御影堂修復工事の完工を機に、明治時代以来、御影堂に掲げられてきた「見真」額の取り扱いが論議を呼んでいる。  
大師号は学徳すぐれ国家に貢献した高僧が没後に朝廷から賜る称号（贈り名）。東西両本願寺は1761（宝暦11）年、親鸞の五百回忌法要にあたって、親鸞に大師号をもらおうと朝廷に働きかけたが

田原由紀雄の

## 心のかたち

果たせなかった。明治初年の廃仏毀釈の嵐が収まると、この問題が再浮上し、教団側から政府への熱心な運動が実って



西本願寺御影堂に掲げられた「見真」額

1876（明治9）年、真宗各派に見真大師の号が宣下され、追って明治天皇の真筆で「見真」と記した勅額も下賜され

## 「見真」掲額の是非論争

た。東西両本願寺の御影堂内陣正面に今も掲げられる木製の額の字は真筆を模して刻まれたものだ。  
東本願寺では1895（明治28）年、幕末の禁門の変で焼失した堂の再建が成

ととらえる見方が強まり、1981年の「宗憲」（宗派の憲法）改正にあたって見真大師の語を削除し、大師堂の呼称も御影堂に改めた。一方、西本願寺は2007年の根本法規「宗制」改正の際、「宗

って以来、本来は御影堂と呼ぶべき堂を大師堂と呼んできた。しかし、国家権力に迎合して、戦争に協力した過去の宗門のあり方を反省する機運が高まる中で、大師号をもらったことを負の歴史の原点

門の成立に直接、関係がない」という理由で前文から見真大師の語を削除した。東西両本願寺では親鸞の七百五十回忌法要を前に御影堂の修復工事が進められ、ともに09年に完了したが、こうした

親鸞聖人は自らの名のりと選びを大切に仏道を歩まれました。私たちはその聖人に「見真」という名を天皇の権威によって求め、与えられたことを誉れとしてきたのです。そのことが、いかに親鸞聖人に背き、聖人を悲しませることであつたかに今、気付くのです。「見真額」を聖人のお姿の真上に掲げ続けるという事はそこに安住し、なおも背き続けていることではないでしょうか。まもなく迎えるこのたびの御遠忌において私たちが表現すべきは、この慙愧（ざんき）をにおいて他なりません。

請願より

経過を踏まえて、地方教区の有志から額の撤去を求める請願や建議が出た。「親鸞は念仏弾圧による流罪も経験した民衆宗教の開祖。朝廷から栄誉を受ける立場にはなかった」というのが掲額に異を唱える人々に共通した思いだ。  
「修復前の姿に戻すのが自然」という声もあって、東西両本願寺とも宗務当局は現状維持のかまえたが、「見真」額を考える集会が相次いで開かれている。宗門史再検証の動きは今後も続き、額をめぐる論争は尾を引きそうだ。

（専門編集委員）

次回回は31日